



海上保安庁

令和3年8月17日

福德岡ノ場の火山活動について（8月16日観測）

1. 噴火の状況

8月16日、第三管区海上保安本部羽田航空基地所属航空機により観測を実施しました。観測中に噴火は認められず、8月15日に福德岡ノ場にて観測された新島は、形状が一部変化していました。なお、付近には噴出した軽石等の浮遊物の存在も確認しています。

主な観測結果は以下のとおりです。

[観測結果]

- ・ 新 島：直径約1kmの（^{かっこ}）型に形状が変化。
- ・ 活 動：観測中の噴火は認められなかった。
一方で新島の中心部では噴気活動が認められた。
- ・ 浮遊物：蛇行しながら西北西方向に断続的に約100km（最大幅約13km）まで達していた。

2. 東京工業大学理学院火山流体研究センター 野上健治教授（航空機同乗）のコメントは以下のとおりです。

- ・ 褐色系の濃厚な変色域は現在も広範囲に分布しており、活発な熱水活動が継続していることを示している。
- ・ 新島の大部分は、軽石や火山灰が堆積したものであると考えられ、波浪で縮小する可能性が高い。
- ・ 噴気活動のある新島の中心部は海面上に達している可能性がある。

当庁が実施した調査結果は、随時、海上保安庁海洋情報部HPの「海域火山データベース」にて公開しています。

Web アドレス : <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/list-2.htm>



図1 南硫黄島（左）と福德岡ノ場の新島（右）（2021年8月16日 13:50撮影）



図2 新島の状況 (2021年8月16日 14:14撮影)

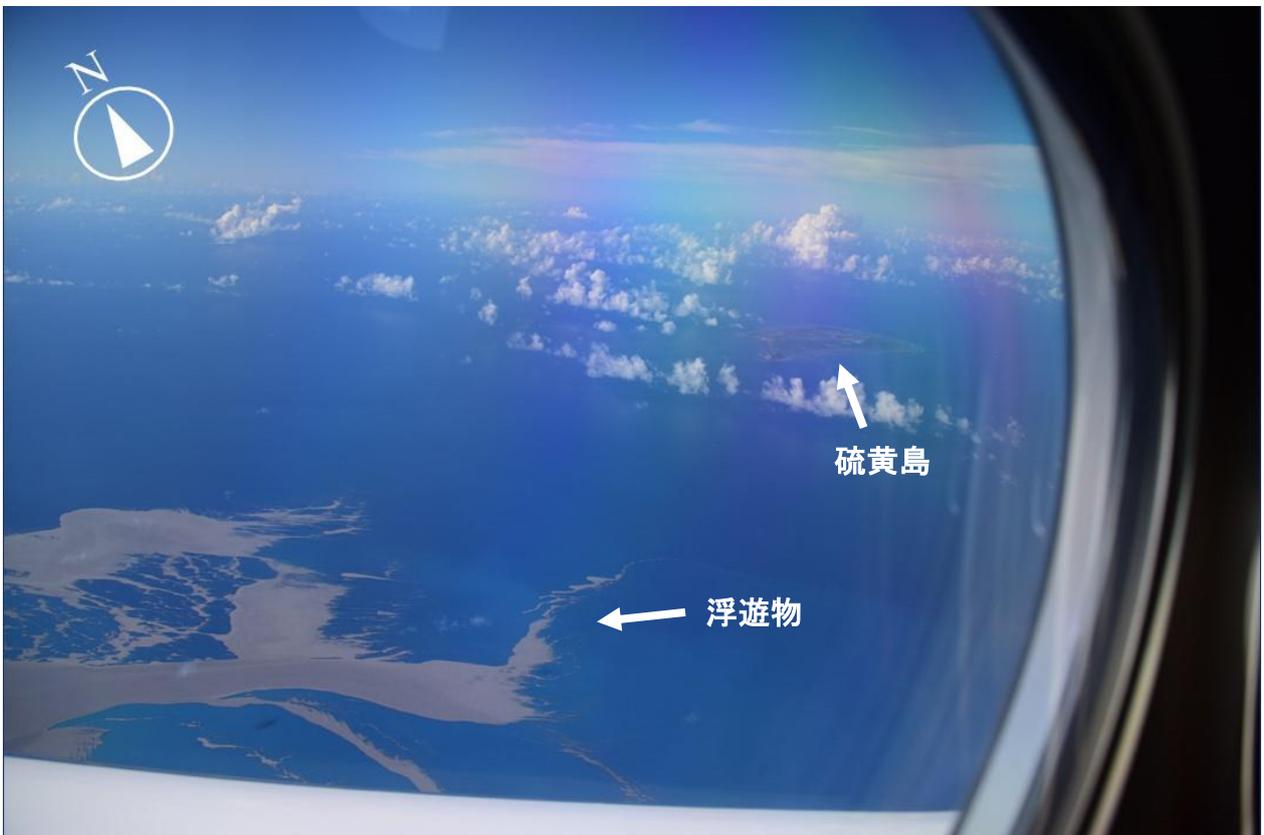
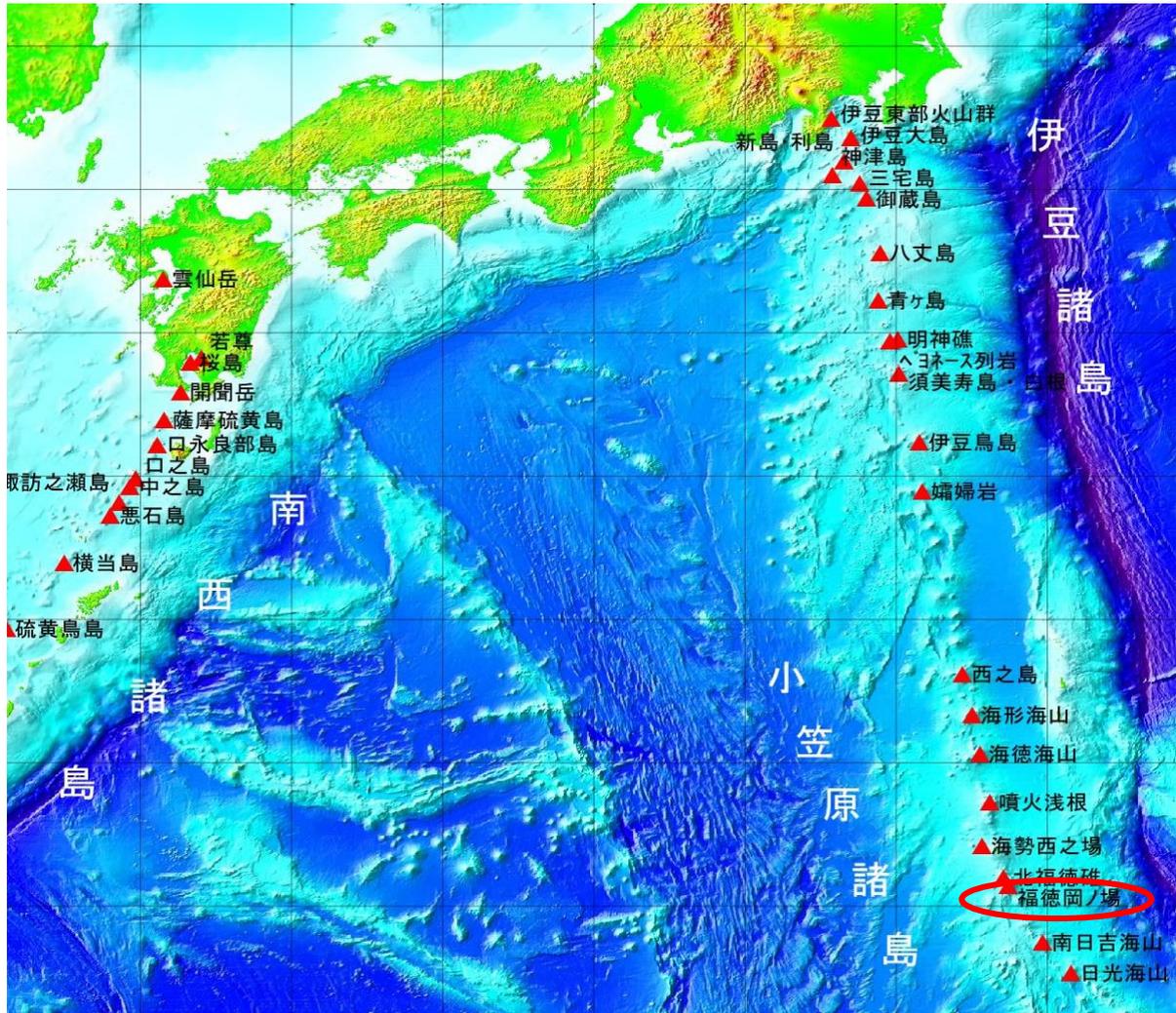


図3 浮遊物の状況 (2021年8月16日 15:08撮影)

【福徳岡ノ場について】

東京から南に約 1,300 km、南硫黄島から北北東約 5 km の位置にあり、この付近の海底火山のうちでも、特にたびたび活動を繰り返している場所です。とりわけ、1904年、1914年及び1986年には、一時新島を形成しましたがいずれもその後海没しており、1986年の海没までの期間は約2か月であった。また、同海域は海底での火山活動を示す変色水がしばしば認められています。



出典：海洋状況表示システム

Web アドレス：<https://www.msil.go.jp/>